

川内川水防災河川学習プログラム
小学校 5 年生 社会科 小单元「自然災害を防ぐ」

複式学級版

○川内川水防災河川学習プログラム「自然災害を防ぐ」

1.学習指導要領における第5学年の目標（学習指導要領※より抜粋）

- 我が国の国土の様子，国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし，環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め，国土に対する愛情を育てるようにする。
- 社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味について考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

※文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 社会編」

2.学習指導要領における単元の内容（学習指導要領※より抜粋）

(1) 我が国の国土の自然などの様子について，次のことを地図や地球儀，資料などを活用して調べ，国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

- 自然災害の防止と国民生活とのかかわりを取り上げ，我が国の国土では地震や津波，風水害，土砂災害，雪害などの様々な自然災害が起りやすきこと，その被害を防止するために国や県（都，道，府）などが様々な対策や事業を進めていることなどを調べる。
- 地震や津波，火山活動，台風や長雨による水害や土砂崩れ，雪害などの被害の様子，国や県などが進めてきた砂防ダムや堤防などの整備，ハザードマップの作成などの対策や事業を取り上げる。
- 地図や統計，写真などの資料を活用したり，関係機関に従事する人に聞き取り調査したり，インターネットなどで自然災害の防止に関する情報を集めたりして具体的に調べるようにする。
- 自然災害が起りやすい我が国においては，日ごろから防災に関する情報などに関心をもつなど，国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることについても気づくように配慮する。

※文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 社会編」

3.第5学年の評価の観点の趣旨（参考）※

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 社会）」より抜粋

4.評価のポイント※

○社会的事象への関心・意欲・態度

- ・自然災害の防止の取組に関心を持ち、意欲的に調べている。
- ・自然災害の防止の重要性に関心を持ち、協力の大切さを考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ・自然災害の防止の取組について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ・国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを考え、自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。

○観察・資料活用の技能

- ・地図や地球儀、その他の資料などを活用して必要な情報を集め、読み取っている。
- ・調べたことを白地図や作品などにまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ・国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを理解している。
- ・自然災害の防止の取組、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを理解している。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 社会）」を参考に作成。

5.川内川学習プログラムにおける単元の目標

日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり、さつま町や身近な川内川を事例として取り上げ、国（川内川河川事務所）や都道府県（鹿児島県）、市町村（さつま町）の取り組みについて調べることを通し、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

6.学習のねらい

平成 18 年 7 月洪水時の経験から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。

7.授業の構成

本小単元の学習プログラムは 4 時間で構成しています。

第 1 時 「自然災害の多い日本」	第 2 時 「災害を防ぐために（公助）」	第 3 時 「災害を防ぐための地域での取り組み（自助・共助）」	第 4 時 「自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助）」
<ul style="list-style-type: none">・日本のどこかで、毎年のように大きな自然災害が発生していることを知る。・日本では自然災害が起こりやすいことを知る。	<ul style="list-style-type: none">・平成 18 年 7 月洪水によるさつま町での被害を取り上げ、風水害への関心を高める。・さつま町で行われている水害を防ぐための取り組みを知る。	<ul style="list-style-type: none">・地域での自助・共助による減災のための努力を知る。・自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを知る。	<ul style="list-style-type: none">・災害に備えて自分たちにできることを考える。

8.指導計画

○「自然災害を防ぐ」指導計画（全4時間）

	本時の問い	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	☆評価のポイント
つかむ	①自然災害の多い日本 1時間	○我が国で近年起こった自然災害を調べて、なぜ日本は自然災害が多いのかを発表し、まとめる。 ○自然災害の多さから、その被害の防止について関心を高め、調べることを話し合っって学習問題をつくる。 学習問題：人々は、自然災害をどのように防いでいるのだろうか。	◆世界と比較しながら、我が国の国土には、自然災害が起こりやすいという特色があることに気づかせ、学習問題につなげさせる。	☆〔技能〕 自然災害について資料などから読み取ってまとめている。 ☆〔思・判・表〕 自然災害の防止の取り組みについて学習問題を考え、表現している。
調べる	②災害を防ぐための地域での取り組み（公助） 1時間	○自然災害（主に地震、津波、土砂災害）の被害を防ぐための国や都道府県、市町村の対策や事業を調べ、わかったことを発表する。	◆さつま町や川内川で実施されている事例をみながら、被害を防ぐために国や都道府県、市町村が実施している取り組みを知る。	☆〔知・理〕 国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていること、自然災害の被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
	③地域のみんで災害を防ぐ（自助・共助） 1時間	○「平成18年7月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校子どもたちの行動」などから「なぜ自分やみんなの命を守ることができたのか」について、気づいたことや考えたことをもとに話し合う。	◆平成18年7月豪雨時の経験や釜石市の小学生の行動から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。	☆〔関・意・態〕 自然災害の防止の重要性に関心をもち、協力の大切さを考えようとしている。 ☆〔思・判・表〕 国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え、自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることを表現している。
	④自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助） 1時間	○これまでの学習をもとに自然災害から自分の身を守るためにはどうすればよいのかを考える。 ○災害に備えて自分たちにできることについて話し合い、発表する。	◆災害に備えて自分たちにできることを自助として考え、提案させる。	

※本指導計画は、平成 24、25 年度にさつま町立盈進小学校で作成された試行授業の指導計画案を元に「川内川水防災河川学習プログラム検討会」での議論を経て作成したものである。

9. 複式学級版学習プログラムについて

複式学級版学習プログラムは、H25年度までに開発した単式学級版学習プログラムをベースに、複式学級においても活用可能なプログラムの開発を行いました。

なお、本教材は、単式学級版学習プログラム同様、さつま町以外の小学校でも活用できるように開発しており、部分的に写真等をより身近な内容に差し替えることで、効果的な活用が可能です。

○間接指導の設定 **Point 1**

- ・複式学級の授業は、教師が一方の学年に指導する「直接指導」と、その間、もう一方の学年が児童だけで学習を進めていく「間接指導」の組み合わせによる指導が基本となります。そのため、**単式学級版学習プログラムを基本に、指導内容を「直接指導」と「間接指導」に配分しました。**
- ・5, 6学年の複式学級のうち5年生を対象学年とし、**授業の導入時は、5年生への直接指導による「めあて」の設定**を基本としました。「めあて」の設定後、教師のわたりによる間接指導を経て、**終末段階で直接指導による「まとめ」を行う**ことを基本的な流れとしました。
- ・終末において6年生が直接指導によるまとめを行うことを考慮し、5年生は、間接授業として、自ら学び自ら考えるために、次の授業に向けた疑問や興味について発展的に考える時間とすることを基本としました。

○ワークシート、補助教材の充実 **Point 2**

- ・新たに、間接指導時の児童による学習支援への活用を想定した「**ワークシート**」の**開発及び補助教材の追加**を行いました。
- ・ワークシートは単式学級においても活用可能です。
- ・補助教材は、多様な教材を用意していますので、教師の判断で適宜選択して使用してください。

- ・設定した「めあて」から「まとめ」に繋がる内容について、ワークシート中の写真等を参考に、「自分で考える」、「みんなで話し合う」設問を用意しました。
- ・記入した内容について、黒板等を使って発表し、理解を深めることも有効です。

ワークシート

補助教材

○評価資料の充実 **Point 3**

- ・各単元の成果に関する評価の参考として「○学習の過程」に「**評価規準**」を記載するとともに、巻末に「**11. 評価計画**」を掲載しました。

○【プログラムの記載内容について】

- ・複式学級版学習プログラムでは、直接指導と間接指導の時間の目安を示しています。
- ・本書では、直接指導を【直】、間接指導を【間】と表記しています。
- ・時間配分や直接・間接の順番については、**児童の理解度や同時進行する6年生の指導内容に応じて適宜調整をお願いします。**

学習活動		直	間	教師の働きかけ
導入	1 最近ニュースでの自然災害の話題はないか考える。	5		<ul style="list-style-type: none"> ● 最近日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか？ <ul style="list-style-type: none"> ● 日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる。
	2 全国の自然災害の発生状況の写真を見て、「自然災害」にはどのようなものがあるかを考える。			<ul style="list-style-type: none"> ● 日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか？
	3 なぜ日本は自然災害が起こりやすい国なのかを、世界と比較する資料で考える。 ○海に囲まれている ○荒れた森林が多い ○地盤プレート ○火山が多い	5		<ul style="list-style-type: none"> ● 世界全体に占める日本の国土面積はどれくらいでしょうか？ ● 世界全体に占める日本の自然災害の割合は約20%と面積と比較すると高い割合となっています。
めあて：なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろうか。				
4 日本で水害・土砂災害が多い理由を予想し、ワークシートにまとめる。		10	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートを活用する。日本で洪水・土砂災害が多いことを理解し、その理由について考える。 	

・本書では、板書用資料として用意した補助資料をⒶと表記しています。
・補助教材は、教師の判断で適宜選択して使用してください。

・その他の事例資料を別途入手する場合に参考となるURLを記載しています。
・必要に応じて参照・活用してください。

・間接指導での学習支援として、ワークシート（別紙）を用意しています。
・本書では、ワークシートに掲載する資料をⓂ、配布用に用意した資料をⒸと表記しています。
・配布資料は、教師の判断で適宜選択して使用してください。

高：直接指導で実施
緑：間接指導で実施

(8)「学習の過程」(第1時)

【第1時「自然災害の多い日本」のねらい】

- ・日本で起こっている様々な自然災害を知る。
- ・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る。
- ・自然災害に対する取組みが行われていることに驚ける。

【第1時の評価の基準】：「観察・資料活用の技能」、「社会生活の技能」我が国の自然災害について資料から読み取る。

【思・判・表】自然災害の多さから、被害を防止

教師の発問（子どもの反応）

T:最近日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか。
(C:地震)

T:そうですね、それでは地震以外にどんな自然災害があるのでしょうか。
(C:津波、洪水、土砂崩れ…)

児童の答えに合わせて黒板に全国の自然災害の写真を貼っていく。

Ⓐ【技能】教科書の災害年表等から、毎年のように日本各地で様々な災害が発生していることを読み取っている。

T:日本には自然災害がこんなにたくさんあります。今日から私たちは何について勉強していくのでしょうか。
(C:自然災害)

Ⓒ【思・判・表】自然災害による被害は、私たちの暮らしを脅かすものであることを捉えている。

T:今日は、これからの授業で自然災害の何について勉強していくか学習問題をつくりましょう。

T:今日の授業のめあては「なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろうか。」です。

・本書では、評価規準を記載するとともに、発問計画に評価に関連する児童の様子をⒹとして記載しています。
・具体的な評価事例を「11. 評価計画」に記載しています。

10.各時間の内容

○「自然災害の多い日本」（第1時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）の導入の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で自然災害（津波・地震・噴火・土砂崩れ・水害・台風）の写真を見せる。 ・日本は自然災害が多い国であるかを予想させ、実際に多いことを資料を通して確認させる。 ・なぜ世界に比べて自然災害が多いのか、予想させノートにまとめる。 ・自然災害が多い理由の因果関係を全体で確認する。 ・日本は自然災害が多い国であるのに、死者数が少ないのはなぜか考えさせ学習問題を立てさせる。
(3) 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・導入では、最近の新聞やニュース記事での自然災害を引用し、身近な問題として実感させる。 ・我が国の国土には自然災害が起こりやすいが、世界と比べて自然災害の死者数は少ないという点を気づかせ、学習問題につなげさせる。
(4) 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で起こっている様々な自然災害を知る。 ・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る。 ・自然災害に対する取り組みが行なわれていることにつなげる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.102～103 指導書： <ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.102～103 ・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.105

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①全国の自然災害の写真 (6枚)	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
②世界全体に占める日本の国土面積の割合 (世界地図)	板書	
③世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合 (グラフ)	板書	
④世界の地震の震源の分布	板書	
⑤世界の火山の分布	板書	
⑥2000年～2009年のマグニチュード6.0以上の地震回数	板書	
⑦ワークシート (B4版)	配布	
⑧配付資料 (A3版)	配布	
⑨世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合 (グラフ)	板書	

(7) 参考資料


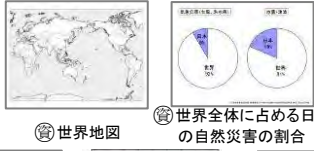
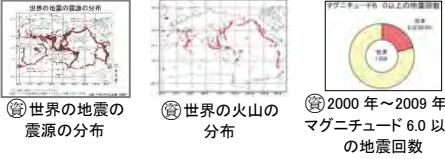

資料名	形式	備考
1 日本の水害・土砂災害の発生回数	P P T	付属 DVD (教材データ集) に収録
2 平成 26 年 8 月に京都府で発生した洪水	P P T	
3 平成 26 年 8 月に広島県で発生した土砂災害	P P T	
4 日本の川の流れの特徴	P P T	
5 日本と世界の降水量	P P T	
6 日本の地形の特ちょう	P P T	
7 2013 年に日本に近づいた台風	P P T	
8 平成 18 年洪水時のまちの高さと川の水面	P P T	
9 雨が多い季節	P P T	
10 日本周辺のプレート	P P T	
国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」(台風はいつごろ近づくの) < http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/ >	インター ネット サイト	台風の経路
一般財団法人日本気象協会「日本地震マップ」 -地震発生状況を地図とアニメーションで表示- < http://www.quakemap.info/ >	インター ネット サイト	地震発生状況
国土交通省水管理・国土保全局「水害・土砂災害情報」 < http://www.mlit.go.jp/river/bousai/saigai/ >	インター ネット サイト	近年発生した、水害・土砂災害に関する情報・写真

(8)「学習の過程」(第1時)

【第1時のねらい】

- ・日本で起こっている様々な自然災害を知ることができる。
- ・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知ることができる。
- ・自然災害に対する取組みが行われていることに繋げることができる。

- ・我が国の自然災害について資料から読み取ったことを、白地図や年表に整理しようとしている。【観察・資料活用の技能】
- ・自然災害の多さから、被害を防止する取組みがあることを予想し、学習問題を立てようとしている。【社会的な思考・判断・表現】

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
導入	<p>1 最近ニュースでの自然災害の話題はないか考える。</p> <p>2 全国の自然災害の発生状況の写真を見て、「自然災害」にはどのようなものがあるかを考える。</p> <p>めあて：なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。</p>	5	<p>● 最近日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか？</p>  <p>● 日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる。</p> <p>参 災害の事例写真の参考URL http://www.mlit.go.jp/river/bousai/saigai/</p>
展開	<p>3 なぜ日本は自然災害が起こりやすい国なのかを、世界と比較する資料で考える。</p> <p>○海に囲まれている ○荒れた森林が多い ○火山が多い</p>	5	<p>● 世界全体に占める日本の国土面積はどれくらいでしょうか？</p> <p>● 世界全体に占める日本の自然災害の割合は約20%と面積と比較すると高い割合となっています。</p>  <p>● 世界全体に占める日本の自然災害の割合</p>  <p>● 世界の地震の震源の分布 ● 世界の火山の分布 ● 2000年～2009年のマグニチュード6.0以上の地震回数</p>
	<p>4 日本で水害・土砂災害が多い理由を予想し、ワークシートにまとめる。</p>	10	<p>● ワークシートを活用する。日本で洪水・土砂災害が多いことを理解し、その理由について考える。</p> <p>W 水害・土砂災害の発生回数、平成26年の大雨被害の写真</p> <p>西記 日本の川の流の特徴、日本と世界の平均降水量、日本の地形の特徴、2013年に日本に近づいた台風</p> 

T:教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は、試行授業においてワークシートに記載された回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:最近日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか。

(C:地震)

T:そうですね。それでは地震以外にどんな自然災害があるのでしょうか。

(C:津波,洪水,土砂崩れ…)

児童の答えに合わせて黒板に全国の自然災害の写真を貼っていく。

⑨【技能】教科書の災害年表等から、毎年のように日本各地で様々な災害が発生していることを読み取っている。

T:日本には自然災害がこんなにたくさんあります。今日から私たちは何について勉強していくのでしょうか。

(C:自然災害。)

⑨【思・判・表】自然災害による被害は、私たちの暮らしを脅かすものであることを捉えている。

T:今日は、これからの授業で自然災害の何について勉強していくか学習問題をつくりましょう。

T:今日の授業のめあては「なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。」です。

資料の「世界地図」を黒板に貼る。

T:世界全体に占める日本の国土の割合はどれくらいでしょうか。

(C:0.1%,0.2%…)

T:世界全体に占める日本の国土の割合はわずか0.28%です。

資料「世界全体に占める日本の自然災害の割合」を黒板に貼る。

T:でも、世界全体に占める日本の自然災害の割合は、台風・洪水等で8%、地震・津波は、世界の約19%を占めています。

資料「世界の地震の震源の分布」,「世界の火山の分布」,「地震回数」を黒板に貼る。

⑨【技能】資料から、世界全体に占める国土面積の割合が低いこと、それに比較して自然災害発生の割合が高いことを捉えている。

T:日本は、周りを海に囲まれており、たくさんの震源や火山が分布していることから、地震が多く発生しています。

先程のグラフのとおり、日本では地震だけでなく、水害も多く発生しています。

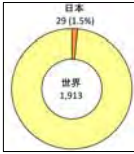
それでは、なぜ日本では洪水や土砂災害が多いのか、資料を見ながら考えてみましょう。

「ワークシート」と「配付資料」を配布する。

T:資料を見ながら、日本で水害や土砂災害が多い理由を考えてみましょう。

考える時は、「日本は〇〇だから〇〇が多い」というふうに考えてみましょう。

⑨【技能】資料から、日本で水害や土砂災害が多いこと理由を読み取っている。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
展 開	5 まとめた内容について、グループで話し合う。		10	
	6 ワークシートにまとめた内容を発表する ○山が多い ○雨が多い ○台風の通り道 ○川が急流 7 発表した予想について、資料で確認する。	5		● 日本で様々な自然災害が発生する理由を気づかせる。 ● 様々な自然災害と児童が考えていた理由を矢印で関連付けて、板書を構造化していく。
終 末	8 日本で自然災害が多い理由をまとめる。 まとめ：日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起りやすい。 ○ 日本は自然災害が多い国であるにもかかわらず亡くなった人の数が少ないのだろう。	5		● 日本には、自然災害が起りやすい様々な理由があるのですね。 ● では、これだけ自然災害が起っているということは、災害で亡くなっている人の数も多いのでしょうか。  ④世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合(グラフ) ● 日本は自然災害が多い国であるにもかかわらず亡くなった人の数が少ない理由を考えさせる。
	9 「誰がどんな備えをしているのだろう」という学習問題を立てる。		5	● 自然災害に対する備えが何かありそうですね。 ● ワークシートで、災害の発生に比較して被害は少ないことの理由を考える。
		20	25	
		45		

教師の発問（こどもの反応）

T: グループで話し合ってみましょう。

T: それでは、日本で水害や土砂災害が多い理由を発表しましょう。

(C: 台風がたくさん来るから、台風の通り道になっているから、川が多いから、川の流れが急だから、日本には梅雨があるから、降水量が多いから、大雨が降って土が軟らかくなるから、海に囲まれているから、火山が多いから、地震が多いから、日本の周りにプレートの境目が多いから、…)

※試行授業では、地震系に関する回答も多く見られました。土砂災害は、地震が引き金となって発生することもあります。

資料「配付資料中の図表」を黒板に貼り、地震・津波も含めた自然災害と、その理由を矢印で関連づける。

⑨【思・判・表】日本で水害や土砂災害が多いことを踏まえ、自分自身の生活と関連づけ、さまざまな理由があることを捉えている。

T: 日本には、自然災害が起こりやすいさまざまな理由があるのですね。

T: 今日のまとめです。「日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。」

T: では、これだけ自然災害が起こっているということは、災害で亡くなっている人の数も多いのでしょうか。

資料「世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合」を黒板に貼る。

⑩【技能】資料から、世界全体に占める自然災害発生の割合に比べて、亡くなった人数の割合が低いことを捉えている。

T: 日本の占める割合は1.5%です。日本では自然災害が多いのですが、実は亡くなっている人の数は少ないのです。なぜなのでしょう。

T: 自分の考えたことをワークシートにまとめさせる。

(C: いろいろな施設が整備されたり、消防団などがあるから、対策がたくさんあるから、避難所などがたくさんあるから、避難訓練が行われているから、災害が起きたときに素早く避難しているから、…)

T: 自然災害に対する備えが何かありそうですね。

それでは、次の時間からはそのことについて調べていきます。

⑪【思・判・表】日本では自然災害は多く発生するが、亡くなった方は少ないことを捉え、被害の防止への取り組みを予想して学習計画を立てている。

(9) 板書計画

めあて なぜ日本では自然災害が
起こりやすいのだろう。

海に囲まれる
日本の周りは

- ・震源が多い
- ・火山が多い

■なぜ水害や土砂災害が
多いのだろう？

- ・台風がよく近づくから
- ・降水量が多いから
- ・川が短く、高いところから
流れてくるから
- ・山地が多いから
- ・大雨で土が軟らかくなる
から

日本で最近おきた
自然災害

まとめ 日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる
地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなど
のさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。

終末で追加

まとめが長文となることから、説明や理解が難しいと考えられる場合は、(かっこ)書きや箇条書き等を利用することも効果的です。

<例 1>
日本は、(雨)が多い気候や(山)が多く(川)が急流となる地形、また、(海)に囲まれていることや(火山)が多いことなどのさまざまな理由により(自然災害)が起こりやすい。

<例 2>
日本は、以下のようなさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。
・雨が多い気候
・山が多く川が急流となる地形
・海に囲まれていること
・火山が多いこと など

○「自然災害を防ぐために（公助）」（第2時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・さつま町で実施されているいろいろな対策について調べ学習を行う。 ・調べた結果を発表させ、教師が意図的に分類して、その分類意図を考えさせる。その活動を通して、国、都道府県、市町村が行っている「避難場所や危険箇所を事前に知らせる」、「防災情報を早く正確に伝える」、「災害を防ぐための工事を行う」などの「公助」を捉えさせる。
(3) 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・さつま町の災害を防ぐ取り組みについてのワークシートによる調べ学習を通じて、授業を展開する。 ・様々な対策や事業を分類し、その活動を通して、国、都道府県、市町村が行っている「公助」を捉えさせる。
(4) 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体により実施されている様々な「公助」を理解する。 ・堤防整備などの対策により、災害の被害を減らすことができることを知る。 ・緊急地震速報などを伝える「公助」を理解し、国民が生活に活かしていることを知る。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.104～105 指導書： <ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.104～105 ・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.106

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の津波被害の写真	板書	付属DVD（教材データ集）に収録
②岩手県普代村の被害状況の写真	板書	
③平成18年水害写真（3枚）	板書	
④ワークシート（B4版：災害を防ぐ取り組み）	配布	
⑤配付資料（取組カード10種類；A3×1枚）	配布	
⑥さつま町での災害を防ぐ取り組み（A4×10枚）	配布	
⑦岩手県普代村の津波対策の写真（2枚）	板書	
⑧ワークシート（B4版：情報伝達ルートのパズル）	配布	
⑨配付資料（A3版：情報伝達ルートのパズル・グループ討議用）	配布	
⑩情報伝達ルートのパズル（正解）	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
日本経済新聞電子版「岩手県普代村は浸水被害ゼロ、水門が効果を発揮（2011/4/1 7:00）」 < http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK31023_R30C11A3000000/ >	インターネットサイト	岩手県普代村の新聞記事

(8)「学習の過程」(第2時)

【第2時のねらい】

- ・国や地方公共団体により実施されている様々な「公助」を理解することができる。
- ・堤防整備などの対策により、災害の被害を減らすことができることを知ることができる。
- ・緊急地震速報などを伝える「公助」を理解し、国民が生活に活かしていることを知ることができる。

・国や地方公共団体が様々な事業を行っていること、国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が大切であることを理解しようとしている。【社会事象についての知識・理解】

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
導入	<p>1 東日本大震災の「岩手県普代村」の被害状況の写真を見て、なぜ死者が出なかったのかを考える。</p> <p>めあて：自然災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。</p>	5	<p>● 日本では自然災害が多いのに死者が少ない理由を、東日本大震災で死者がでなかった「岩手県普代村」を例に考えさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>④ 東日本大震災の津波の被害の写真 ④ 普代村の被害の写真</p>
展開	<p>2 平成 18 年の学校の近くの水害の様子の写真を見て、さつま町ではどんな自然災害があるかを考える。</p>	5	<p>● さつま町でも平成 18 年に大きな洪水が起きました。</p> <div style="display: flex; justify-content: center;">  </div> <p>④ 平成 18 年水害写真</p>
	<p>3 ワークシートから、さつま町での自然災害の被害を防ぐための取組みを調べる。</p>	10	<p>● 自然災害を防ぐために、さつま町内で進められている取組みを調べてみましょう。</p> <p>● ワークシートを活用する。</p> <p>☒ さつま町で進められている災害を防ぐ様々な取組みの写真</p>  <p>☒ さつま町で進められている災害を防ぐ様々な取組みの写真</p> 

T:教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は、試行授業においてワークシートに記載された回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:前回の授業では、日本では自然災害が多いけれども、亡くなっている人の数は少ないということを学習しましたね。

資料「東日本大震災の津波の写真」を黒板に貼る。

T:東日本大震災の津波の写真です。この地震で亡くなった人は19,000人以上、行方不明者・負傷者を入れると28,000人近くです。

資料「^{ふだいむら}普代村の被害の写真」を黒板に貼る。

T:岩手県にある普代村という人口約3300人あまりの小さな村で、他の地域と同様に、高さが15mにも及ぶとされる大きな津波が押し寄せました。しかし、この村で津波の浸水により亡くなった人は0人でした。なぜでしょうか。

(C:だれかが何かをした、避難するように放送した…)

T:なにか取り組みがありそうですね。

T:今日の授業のめあては「自然災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。」です。

資料「平成18年水害写真」を黒板に貼る。

T:さつま町でも平成18年に大きな洪水が起こり、残念ながら1名の方が亡くなりましたが、災害によって亡くなった方はほとんどいません。


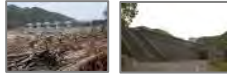

なぜでしょうか。

さつま町では、災害を防ぐために様々な取組が進められています。ワークシートを使って調べてみましょう。

「ワークシート」と「配付資料」を配布する。

T:さつま町で進められている様々な取組の説明を読んで、似ている取組どうしてわけてみましょう。

⑨【知・理】さつま町内で、国や都道府県、市町村によって様々な取組が進められていることを理解している。

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
展 開	4 調べた結果を発表し、取組みの機能や仕組みを確認し、分類する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 国土交通省やさつま町が行っていることを捉えさせる。  ④ さつま町で進められている災害を防ぐ様々な取組み ● 普代村でも同じように災害の被害を防ぐための取組みを行っていたことを捉えさせる。  ④ 普代村の津波対策の写真
	5 災害が起こりそうなときに、私たちに届く情報はどのように伝えられているのかを考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートを活用する。  ④ 災害時の情報伝達経路のパズル
終 末	6 ワークシートのパズルの答え合わせを行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> まとめ： 国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「事前に知らせる」、「伝える」、「防ぐ」取組みをしています。これを「公助」と言います。 </div> <p>○ 国土交通省やさつま町が行っている「公助」により、私たちは自然災害から守られています、それだけでよいのでしょうか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 発展：国、県や町の取組みを振り返り、その目的や重要性を確認する。 「国、県や町の取組みで、特に大事だと思うことはどれですか。また、それはなぜですか。」 </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 国土交通省が雨や川の水位を観測し、災害が起こりそうなときは、さつま町が避難情報を出していることを捉えさせる。 ● 国・都道府県・市町村が行っている「公助」を生かしながら、自分の身を守るために必要な備えについて考えさせる。
		25	20
		45	

教師の発問（こどもの反応）

T:では、「避難場所や危険箇所を事前に知らせる取組」にはどのようなものがあるでしょうか。

(C:「⑥洪水ハザードマップ」や「⑧避難場所を示す看板」,「⑨土砂災害ハザードマップ」「⑩まるごとまちごとハザードマップ」です。)

「さつま町で進められている災害を防ぐ様々な取り組み」を、グループ毎に黒板に貼っていく。以下、「伝える」「防ぐ」について同様。

T:そうですね。洪水ハザードマップや土砂災害ハザードマップ、避難場所を示す看板は、さつま町が作ったり配ったりしています。まるごとまちごとハザードマップは、国土交通省が進めていますね。

T:では、「防災情報を早く正確に伝える取組」にはどのようなものがあるでしょうか。

(C:「①土砂災害情報」や「③監視カメラ」,「④防災無線」です。)

T:そうですね。災害がおこりそうなときに、さつま町や国が早く伝えられるように取組が進められています。

T:では、「災害を防ぐ取組」はどれでしょうか。

(C:「②がけくずれ工事」,「⑤堤防」,「⑦分水路」です。)

T:そうですね。国土交通省、鹿児島県、さつま町がそれぞれ分担して工事を進めています。

T:このようにさつま町では、国や町が災害を防ぐための工事や、災害の情報を伝えたり、危険な場所や避難場所を事前に知らせる取り組みを行っています。

T:実は、最初の写真の岩手県の普代村でも同じような取り組みがありました。

資料の「普代村の津波対策の写真」を黒板に貼る。

普代村では1896年の津波により1,000人以上の犠牲者が出ました。また、1933年にも津波が襲来し、約600人の犠牲者が出たのです。

岩手県では、二度とこのようなことが起こらないように水門と防潮堤を建設しました。この水門と防潮堤が東日本大震災の津波の被害を防いだのです。

⑨【知・理】自然災害を防ぐために、国や都道府県、市町村により様々な対策や事業が進められていることを理解している。

「ワークシート」を配布する。

T:さつま町で水害が起こりそうなときに情報を教えてくれるのは国土交通省でしたね。

それでは、どのようにみんなに情報を伝えるのか考えてみましょう。

黒板で「災害時の情報伝達経路のパズル」の答え合わせを行う。

T:さつま町で水害が起こりそうなときに、国土交通省はさまざまな伝達経路で情報を伝えています。

⑨【知・理】自然災害を防ぐための情報を伝える取組においても、様々な経路が準備されていることを理解している。

T:今日のまとめです。「国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「事前に知らせる」,「伝える」,「防ぐ」取組みをしています。これを「公助」と言います。」

国、県や町がみんなを守ってくれているのですね。

T:でもそれだけでいいのでしょうか。

(C:だめです。)

T:そのほかには、どんなことが大事だと思いますか。

(C:自分たちで備えることが大事だと思います。)

⑨【知・理】自然災害への備えとして、国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が大切であることを理解している。

T:そうですね。次の時間からは自然災害に備えてわたしたち自身にできることについて考えていきましょう。

(9) 板書計画

めあて 自然災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。

自然災害を防ぐために、さつま町内で進められている取り組みを調べてみましょう。

ひな場所や危険か所を事前に知らせる 防災情報を早く正確に伝える 災害を防ぐ

東日本大震災の死者数:19,000人以上 岩手県普代村の死者数:0人

さつま町の洪水(平成18年)の死者数:1人

災害情報がとどくしくみ

まとめ 国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「事前に知らせる」、「伝える」、「防ぐ」取り組みをしています。これを「公助」と言います。

展開の4で追加

普代村の津波対策



まとめが長文となることから、説明や理解が難しいと考えられる場合は、(かっこ)書きを利用することも効果的です。

<例>

国・県・市町村は(自然災害)を防ぐため
「(事前に知らせる)」、「(伝える)」、「(防ぐ)」
取り組みをしています。
これを、「(公助)」と言います。

○「地域みんなで災害を防ぐ（自助・共助）」（第3時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成18年7月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校子どもたちの行動」などから「なぜ自分やみんなの命を守ることができたのか」について、気づいたことや考えたことをもとに話し合う。 ・自然災害の被害を防止するには、住民相互の協力や日頃からの防災意識が大切であること、日ごろの備えや防災訓練の大切さを知る。
(3) 学習方法の工夫	・「平成18年7月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校子どもたちの行動」の事例から、命を守るために何が必要であるかを考えさせ、授業を展開する。
(4) 本時のねらい	・平成18年7月豪雨時の経験や釜石市の小学生の行動から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.106～107 指導書：・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.106～107 ・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.107

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①平成18年水害写真（2枚）	板書	付属DVD（教材データ集）に収録
②東日本大震災の津波被害の写真	板書	
③NHK「シンサイミライ学校」（片田敏孝先生のいのちを守る特別授業 第1回「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」）※約3分間のVTR < http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program_sp01/watch03.html >	視聴	インターネットサイト
④ワークシート（B4版）	配布	付属DVD（教材データ集）に収録
⑤釜石小学校の生徒のイラスト	板書	
⑥さつま町民のイラスト	板書	
⑦避難三原則	板書	
⑧さつま町一斉防災訓練の写真	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
片田 敏孝（2012）「命を守る教育」 PHP 研究所	書籍	岩手県釜石市の小・中学生を救った防災教育についての書籍



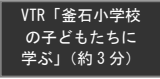


(8)「学習の過程」(第3時)

【第3時のねらい】

- ・平成18年7月豪雨の経験や釜石市の小学生の行動から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを知ることができる。

・公助のしくみを利用しながら、まわりの人と協力して日頃から災害に備えたり、防災意識を高めていくことが大切であることを、作品に表現しようとしている。【社会的な思考・判断・表現】

・自分自身が取り組めることを考えて、作品で提案しようとしている。【社会的な事象への関心・意欲・態度】

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
導入	<p>1 川内川が増水して溢れそうな状況で、家族と連絡がとれない状況を想像し、自分だったらどうするかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 近所の人に相談する <input type="radio"/> 避難しようとする <input type="radio"/> 家で待っておく <input type="radio"/> 一人で逃げる <p>2 平成18年洪水の時、さつま町では死者1名、救助された人237名であったのに対し、東日本大震災の時、釜石小学校184名は全員が無事で、救出者も0名だったのはなぜなのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて：災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。</p> </div>	10	  <p>◎東日本大震災の津波の被害の写真</p> <p>◎平成18年水害写真</p>
展開	<p>3 VTR(3分)を見て、なぜ釜石市の子供たちは逃げることができたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 一人で避難した。 <input type="radio"/> 避難訓練で練習した。 <input type="radio"/> 避難訓練の実力を発揮した。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画(3分) ※岩手県釜石市釜石小学校では、津波襲来時に生徒184名が、防災教育を踏まえた適切な対応と行動をとったことにより、一人の犠牲者も出さず、津波の被害を逃れることができました。 ● ワークシートを活用する。 ☒ 釜石市の小中学生の話  
	<p>4 ワークシートを見て、さつま町で多くの人々を救助しなければならなくなった理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 危機感がなかった。 <input type="radio"/> 1人で逃げずに待っていた。 <input type="radio"/> 呼びかけに応じなかった。 <input type="radio"/> 見回りが足りなかった。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートを活用する。 ☒ 平成18年の水害当時のさつま町民の話 

T:教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は、試行授業においてワークシートに記載された回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:前回の授業では、国や都道府県、市町村は「公助」という自然災害による被害を防いだり減らしたりするための取り組みを行っているということを学習しましたね。そして、公助だけではなく、自分たちで備えることが大切ではないか?という話がありました。

T:それでは想像してみましょう。町内のスピーカーから「避難しましょう。」という放送が流れています。外は大雨です。あなたは家に一人です。あともう少ししたらお家の人が帰ってきます。不安になって近所の人を見てみると避難していません。どうしますか。

(C:学校の友達や近所の人に相談する、家で家族の帰りを待つ、一人で避難する…)

資料「平成18年水害写真」を黒板に貼る。

T:さつま町の平成18年の水害のとき、残念ながら1名の方が亡くなりました。平成18年当時のさつま町の人口は約25,000人でしたが、そのうち237名の方は、消防や警察に救助されて助かることができました。

資料「東日本大震災の津波の被害の写真」を黒板に貼る。

T:東日本大震災ではたくさんの方が亡くなりました。しかし、岩手県の釜石市というところでは、大人の生存率60%だったのに対し、小中学生の生存率は98%でした。しかも、釜石市の釜石小学校は生徒が184名いるのですが、みんな外で遊んでいたのにもかかわらず全員が無事でした。これはすごいことですね。どうしてこんなことができたのか、考えてみましょう。

T:今日の授業のめあては「災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。」です。

「ワークシート」を配布する。

T:これからVTRを見てもらいます。

VTRから、なぜ釜石市の子供たちは逃げて、助かることができたのか、気がついたことをワークシートにまとめましょう。




VTR「釜石小学校の子供たちに学ぶ」(約3分)【教材⑤】を視聴する。

◎【関・意・態】釜石市の子供たちが助かることができた理由について、関心を持って意欲的に調べている。

T:さつま町では、237名の方が救助されて助かりました。

ワークシートの平成18年洪水時の避難者と救助者の体験談を読んで、なぜ救助が必要になったのか、気がついたことをワークシートにまとめましょう。

◎【関・意・態】さつま町で救助が必要となった理由について、関心を持って意欲的に調べている。

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
終末	<p>○ 釜石市の子供たちは、学習や避難訓練で学んだことを実践したため、自分の命を守ることができた。</p> <p>○ さつま町でも平成 18 年の水害の教訓を生かし、避難訓練など、災害から身を守るための取り組みが行われている。</p> <p>○ このように、地域で防災訓練などを行い、共に助け合うことを「共助」といい、自分の身を自分で守ることを「自助」といいます。</p> <p>まとめ：地域で共に助け合う「共助」や、自分の身を自分で守る「自助」のために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。</p>	10	<p>● 自分たちのできることを事前に考え、避難訓練をすることにより、自分の命を守ることができていることに気づかせる。</p> <p>● 「避難 3 原則」を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 想定にとらわれるな ・ 最善を尽くせ ・ 率先避難者たれ    <p>釜石小学校の児童のイラスト</p> <p>さつま町一斉防災訓練の写真</p> <p>さつま町民のイラスト</p>
	<p>5 自分や友達、家族の身を守るために、自分たちで何ができるかを考える。</p> <p>発展：地域の取り組みを振り返り、なぜ地域の取り組みが重要なのか発表する。 「さつま町での避難訓練に参加する場合、どんなことを大事にして参加すればよいと思いますか。」</p>	5	<p>● ワークシートを活用する。 自分たちでできることやこれから気をつけたいことを考えよう。</p>
		20	25
		45	

教師の発問（こどもの反応）

- T: さつま町と釜石の小学校では、救助されて助かった方の数に違いがありました。それはなぜでしょうか。
 まず、釜石小学校の子供たちが逃げて助かることができたのはなぜでしょうか。気づいたところを発表して下さい。
- (C: 何回も避難訓練をしていたから、自分たちで避難訓練を考えるなどの工夫をしていたから、自分で判断することができたから、自分の身を自分で守る・自分一人でも生き延びるといことを言われ、その通りにしたから、家で親を待たず、自分で避難所に行ったから、…)
- T: そうですね。それでは、さつま町で救助された方が多かったのは、なぜでしょうか。発表して下さい。
- (C: 川の水位をみても危機感を感じなかったから、いつも通りだと思い込んだから、避難を呼びかけられても避難しなかったから、お父さんを待ってから避難したから、浸水に気づいていなかったから、避難訓練をしていなかったから、見回りをせずにお年寄りがどこに何人居るかが分かってなかったから、…)
- ◎【思・判・表】救助されて助かった方の数の違いの理由について思考し、表現している。
- T: 釜石市をはじめとした東北地方の海沿いの地域は、これまでも何度も津波による被害を受けていました。釜石市の生徒たちは、避難訓練を重ねるとともに「避難3原則」と呼ばれる学習もしていたのです。
- 資料「避難三原則」を黒板に貼る。
- 1つめは「想定にとらわれるな」、2つめは「最善を尽くせ」、3つめは「率先避難者たれ」です。
- 「津波はここまでは来ないはずだ」などの想定にとらわれずに、その場その場で自分にできる最善のことを考えて避難したのです。また、誰かが動くのを待つのではなく、自分が率先して避難することで、周りの人も避難がしやすくなる。そんな風に学んだことをそれぞれがしっかり活かして逃げたことで、釜石小学校の生徒は津波から生き延びることができたのです。
- T: 実はさつま町でも、平成18年水害の教訓を生かして防災訓練を行っています。これまで、避難訓練に参加したことのある人はいますか？
- みなさんも、釜石小学校の小学生のように自分の身を自分で守るために、普段から避難訓練に真剣に取り組むことが大事ですね。
- 資料「さつま町一斉防災訓練の写真」を黒板に貼る。
- T: このように、自分の身は自分で守ることを「自助」といいます。そして避難訓練など、地域のみinnで協力して災害を防ぐ取り組みを「共助」といいます。
- 今日のまとめです。「地域で共に助け合う「共助」や、自分の身を自分で守る「自助」のために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。」
- 次の時間は、自分の身を守るためにはどうすればいいのかを学習していきたいと思います。
- T: 今後、避難訓練に参加するときに気をつけたいことや、もしも今から避難が必要になったとした場合に自分はどんなことができるのか、など、今日の授業を受けて思ったことをワークシートに書いてみましょう。
- (C: 自分の家で避難訓練をする、避難訓練にまじめに参加する、逃げるときのために荷物をまとめる、予め避難場所を調べておく、危ない場所には近づかない、自分で今どうなっているのかを調べるようにする、すぐ避難するようにする、避難勧告などが出たときは一人でもすぐに逃げるようにする、お父さんなどが避難しないようなら一緒に避難する、…)
- ◎【思・判・表】自分自身が取り組めることを考えて、提案しようとしている。

(9) 板書計画

めあて 災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。

どのような違いがあるだろう？

釜石小学校	さつま町
<ul style="list-style-type: none"> 一人避難した。 避難訓練で練習した。 避難訓練の実力を発揮した。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機感がなかった。 1人で逃げずに、家族の帰宅を待っていた。 呼びかけに応じなかった。 見回りが足りなかった。

釜石小学校では 184 名全員が無事に避難

さつま町の一斉防災避難訓練

今後、自分たちでできることや気をつけることには何があるだろう？

まとめ 地域で共に助け合う「共助」や自分の身を自分で守る「自助」のために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。

- 想定にとられるな
- 最善を尽くせ
- 率先避難者たれ

終末で追加

まとめが長文となることから、説明や理解が難しいと考えられる場合は、(かっこ)書きを利用することも効果的です。

<例>

地域で共に助け合う「(共助)」や自分の身を自分で守る「(自助)」のために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。

○「自然災害から身を守るためにわたしたちができること」（自助）（第4時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）のまとめの時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・治水対策を行っていても想定外の洪水が起こる可能性があることを気づかせる。 ・さつま町で起こりやすい水害や土砂災害などから身を守るために、防災に関する情報を知り、避難場所・避難経路を確認し、必要な持ち物を用意しておくこと大切さに気づかせる。
(3) 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・公民会単位のハザードマップで自宅近くや学校、通学路の危険な場所、地域の避難所を確認させる。 ・これまでの学習内容やワークシートの内容をもとに、グループで災害に備えてできることについて話し合わせ、発表させる。
(4) 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をふりかえり、災害に備えて自分たちにできることについて話し合うことで、自助の意識を高める。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	<p>教科書：東京書籍「新しい社会 5 下」P.106～107</p> <p>指導書：・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 指導編 P.106～107</p> <p>・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編 P.107</p>

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①昭和 47 年のさつま町での洪水被害とその後の堤防整備の写真	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
②平成 18 年水害の写真 (2 枚)	板書	
③集中豪雨 (1 時間降水量 80 ミリ以上) が増加している様子 (グラフ)	板書	
④平成 18 年洪水の体験談 VTR	視聴	
⑤水位レベル表示 (写真)	板書	
⑥防災無線 (写真)	板書	
⑦地デジデータ放送	板書	
⑧監視カメラ (写真)	板書	
⑨川内川河川事務所「早よ見やん川内川」 < http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/ >	I C T 板書	インターネット
⑩川内川防災教室 23	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
⑪ワークシート (B4 版)	配布	
⑫配付資料 (学校別の防災マップ, 土砂災害ハザードマップ)	配布	
⑬川内川防災教室 24	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
⑭轟原地域のマイ洪水ハザードマップの資料	板書	
⑮非常持出袋 (写真)	板書	
⑯配付資料 (情報伝達経路図, 川内川防災教室 9・10・12)	配布	

(7) 参考資料


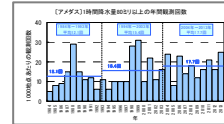




資料名	形式	備考
非常時持出品カード	P P T	付属 DVD (教材データ集) に収録
川内川防災教室	P D F	
国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所「川内川水防災河川学習プログラム」ハザードマップ等の各種資料が入手可能 < http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/program/index.html >	P D F	

(8)「学習の過程」(第4時)

【第4時のねらい】

- これまでの学習内容やワークシートの内容をもとに、災害に備えてできることについて考えることができる。
- 災害時に備えてできることを整理して発表することができる。

- 公助のしくみを利用しながら、まわりの人と協力して日頃から災害に備えたり、防災意識を高めていくことが大切であることを、作品に表現しようとしている。【社会的な思考・判断・表現】
- 自分自身が取り組めることを考えて、作品で提案しようとしている。【社会的事象への関心・意欲・態度】

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
導入	<p>1 さつま町では公助や共助により災害を防ぐためのさまざまな取り組みが行われているが、災害の危険性がなくなったわけではないことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ さつま町では昭和 47 年に大きな洪水があり、その後堤防の整備などの治水対策を行ったが、平成 18 年に再び大きな洪水が起こってしまった。 ○ 平成18年の洪水後、さつま町ではさまざまな治水対策を行っているが、集中豪雨は年々増加しており、災害の危険性が高まっている。 	5	<p>● 治水対策を行っていてもそれをを超える大きな洪水が起こる可能性があることを気づかせる。</p>  <p>◎昭和47年の川内川での洪水被害と堤防整備の写真</p>  <p>◎集中豪雨(1時間降水量80ミリ以上)が増加傾向であることを示しているグラフ</p>  <p>◎平成18年水害写真</p>
展開	<p>2 平成18年洪水の体験談VTRを見て、逃げ遅れないためにはどのようなことをしなければならないかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのように防災情報を活用すればよいのだろうか。 	5	<p>平成18年洪水の体験談 VTR ※洪水の体験談はVTRの3分11秒から始まります。</p> <p>● 活用できる防災情報を知り、避難に備えることの大切さに気づかせる。</p>  <p>◎水位レベル表示 ◎「早よ見やん川内川」 ◎防災無線 ◎地デジデータ放送 ◎監視カメラ ◎防災教室23 ハザードマップをみてみよう</p>
	<p>3 ハザードマップで自宅周辺の災害要素や避難所を確認する。</p>	10	<p>● ワークシート・配付資料を活用する。</p> <p>● 自宅、学校の下校時、よく遊んでいる公園等、様々な場所にいることを想定させ、その際の避難場所を確認させる。</p> <p>☑ 配 防災マップ・土砂災害ハザードマップ</p>  <p>※各種ハザードマップは、地区別に作成されていることから、校区に該当する資料を活用する。</p>  <p>防災マップ 土砂災害ハザードマップ (学校周辺拡大) (各学校別)</p> <p>☑ 各種ハザードマップの入手について 各ハザードマップのデータは、付属DVDの中にあります。</p>

T: 教師の発問

C: こどもの反応 (記載内容は、試行授業においてワークシートに記載された回答を参考にしています。)

教師の発問 (こどもの反応)

T: これまでの授業で、日本は自然災害が起こりやすい国だということを学習しましたね。そして自然災害を防ぐために国や県、市町村では「公助」、地域では「共助」という取り組みを行っていましたね。では、これらの取り組みによりさつま町では自然災害の危険がなくなったのでしょうか。

資料「昭和 47 年の川内川での洪水被害と堤防整備の写真」を黒板に貼る。

T: これは、昭和 47 年に川内川で起こった洪水の写真です。川内川ではこの後、このような大きな洪水被害が起こらないように高い堤防を作るなど、水害を防ぐ工事を行いましたが、平成 18 年にさつま町ではこれまで経験したことがないような大雨が降り、再び大きな洪水が起こってしまったのです。

資料「平成 18 年水害写真」「集中豪雨 (1 時間降水量 80 ミリ以上) が増加している様子 (グラフ)」を黒板に貼付。

T: 平成 18 年の洪水の時、宮之城では最大時間雨量 89mm の大雨が降りました。このグラフはその大雨と同じくらいの量の雨が日本で増加傾向にあることを示しています。つまり日本では、年々自然災害の危険が増えているのです。私たちはどうすればいいのでしょうか。

(C: 水害に備えておく。)

⑨【思・判・表】災害対策の事業が大切であることを捉えたうえで、自助・共助の備えが重要であることを表現している。

T: そうですね。平成 18 年の洪水の後、さつま町では洪水を防ぐさまざまな工事を行っていますが、それを超える大きな洪水が起こるかもしれないので、備えておくことも必要ですね。

T: 今日の授業のめあては「災害に備えて私たちにできることはなんだろうか。」です。

「平成 18 年洪水の体験談 VTR を見せる。

T: お話をしてくださった方たちはなぜ逃げ遅れてしまったのでしょうか。

(C: 今までの経験上油断をしていたから、災害情報を知らなかったから…)

資料「水位レベル表示の写真」「早見やん川内川」「防災無線」「地デジデータ放送」「監視カメラ」を黒板に貼る。

T: 逃げ遅れないために、様々な方法で災害情報を知り、活用することができます。

「水位レベル」は、川の水位がどれくらいまで上がると危険なのかという表示で、避難の判断の目安になります。「防災無線」や「地デジデータ放送」では災害の情報を知ることができます。また、「早見やん川内川」は、川内川の監視カメラの映像を見ることができるインターネットサイトです。これなら川に近づかなくても川の様子が見れますね。

このように洪水の危険があるときは情報を集めて避難に備えることが大切です。

⑨【思・判・表】災害情報を伝える公助の仕組みがあること、それを避難に活用することができることを捉えている。

資料「防災教室 23」を黒板に貼る。




T: 災害を知る情報の一つに「ハザードマップ」があります。洪水や土砂災害の危険がある箇所や避難場所を示した地図です。

「ワークシート」と「配付資料」を配布する。

T: 配った「防災マップ」と「土砂災害ハザードマップ」から、自分の家を探し、自宅や通学路、よく遊ぶ場所などの周辺で気をつけるべき自然災害について調べてみましょう。

また、近くの避難場所を探して覚えましょう。

⑨【関・意・態】自宅や通学路、よく遊ぶ場所など、自分に関わりのある場所で気をつけるべき自然災害や避難場所について、関心を持って意欲的に調べている。

	学 習 活 動	直 間	教師の働きかけ
展 開	<p>4 ハザードマップの留意点や発展的な取り組みについて伝える。</p> <p>5 洪水ハザードマップから地域を知ることに加えて、避難に向けた備えの必要性について考える。</p>	5	<p>※ 上段のハザードマップは、ある条件で想定されたものであることを伝え、自分の地域が浸水しないからといって安心しないこと、想定にとらわれないことの大切さを伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 轟原地区では、洪水ハザードマップをベースに、自分たちで現地調査を行い、問題点や避難経路を整理した「マイ洪水ハザードマップ」を作成する先進的な取り組みもあることを伝える。  <p>⑧ハザードマップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 避難の時にすぐに持ち出せるように、普段から備えておく必要があることを気づかせる。  <p>⑨非常持出品</p>
	<p>6 災害への様々な備えとして、情報収集の方法や持ち出し品について考え、整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発展：非常時持出品カード（参考資料）を使い、避難時に持ち出す必要があるものとその理由を考える。</p>  <p style="text-align: right;">非常持出品カード</p> </div>		10
終 末	<p>7 自然災害に備えて、私たちにできることを総括する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ：自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切です。 また、ひなん勧告などが発表されたら早くひなんすることが大切です。</p> </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学習をふりかえらせ、防災・減災に必要なことを考えさせる。 ● 洪水の時は、1人で避難するのは危険なため、2人以上で避難することを指導する。 ● 避難勧告等が発表されたり、危険を感じた時は、速やかに避難することを指導する。
		25	20
		45	

教師の発問（こどもの反応）

T:これまでの授業で学んだ釜石の子供たちの避難三原則の一つに「想定にとらわれるな」というのがありました。
 ハザードマップは、ある条件の中で出された結果であり、例えばこれまで以上の大雨が降ったりすると、今マップには表示されていないところでも水に浸かったり、土砂が崩れたりする可能性もあります。日頃から心がけるようにしましょう。

資料「ハザードマップ」「防災教室24」を黒板に貼る。

T:轟原の公民館では、町が作ったハザードマップを自分たちで加工して、洪水時の避難ルートや避難の手助けが必要な方や手助けする人などを分かるようにしています。自分の身は自分で守る「自助」と前の時間にも学習した、地域のみんなで協力して災害を防ぐ「共助」を合わせた取組ですね。

資料「非常持ち出し袋の写真」を黒板に貼る。（実物があればそれを見せる）。

T:これは非常持ち出し袋とって、いざというときにすぐに持ち出せるように、避難に必要なものを入れておく袋です。みなさんも、いざというときに備えて非常持ち出し袋を準備しておきましょう。

「配付資料」を配布する。

T:災害時に自分を助けるために自分でできることとして、災害情報を集めることや避難の際の持ち出し品の準備などがあります。

配付資料を参考に、ワークシートに沿って情報を集めることや避難時の持ち出し品を考えてみましょう。

⑨【関・意・態】災害時の備えとして、情報の収集や持ち出し品について関心を持って意欲的に調べている。

T:災害が起きそうな時に、情報はどこから集めればよいでしょうか。

(C: テレビ, ラジオ, 携帯, 防災無線, インターネット, …)

※その他、試行授業では、「目で見る」, 「新聞」などの回答がありました。現地での目視は、水があふれそうになってる時は大変危険なこと、新聞は翌日以降になるので判断には間に合わないことなどを伝えましょう。

T:そうですね。災害が起こりそうなときは、いろいろなところからなるべく早く情報を集めることが大切ですね。

それでは、避難に向けた準備としては、何を持って行けばよいでしょうか。

(C: 水, 食料, ラジオ (手回し), ろうそく・ライター, 衣服, タオル, 携帯, 電池, 薬, お金, 通帳・印鑑, ビニール袋, ロープ, ナイフ, トイレットペーパー, 生理用品, 筆箱, …)

T:そうですね。理科でも学習したように、逃げるための服装を整えることも大切ですね。持ち出し品の準備は、災害が起きてからだに間に合わないので、普段から進めておきましょう。

T:この単元の授業を振り返って、気づいたことや大切だと思ったことはなんですか。

(C: 国や町の公助として工事などを進めて災害に備えること、それでも災害は起こると思って油断しないこと、まわりと協力すること、自分でできる準備をしておくこと・・・)

⑩【思・判・表】公助のしくみを利用しながら、まわりの人と協力して日頃から災害に備えたり、防災意識を高めていくことが大切であることを表現している。

【関・意・態】自分自身に取り組めることを考えて、提案しようとしている。

T:自然災害はいつおこるか分かりません。水害から身を守るためには、普段から安全な避難路を確認し、正しい災害情報を集め、避難勧告などが発表されたり危険を感じたりした時はすぐに避難することが大切ですね。また、避難するとき気をつけることは、理科でも学びましたね。動きやすい服装で避難しましょう。また、周りの人に声をかけて、二人以上で避難するようにしましょう。

T:今日のまとめです。「自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切です。また、ひなん勧告などが発表されたら早くひなんすることが大切です。」

T:この単元でみなさんが学んだこと、今発表してくれたことを、お家の人にも是非教えてあげてください。そして自然災害を防ぐために何をすればいいのかお家の人と話し合ってみましょう。

(9) 板書計画

展開で追加

自分たちで
つくる



めあて 災害に備えて私たちにできることはなんだろうか。

昭和 47 年に川内川で水害が発生

→

てい防の整備を進めた

水害はまた発生した

集中豪雨は増加傾向

災害はまたおこるかもしれない

様々な方法で災害情報を知ることができる

事前に知る
ハザードマップ

災害がおきそうとき

災害の情報	ひなんの準備
・テレビ	・水、食料
・ラジオ	・ラジオ
・無線	・衣服・タオル
・インターネット	・携帯・電池
	・お金
	・ナイフ
	・救急箱

災害が起こりそうときは、早く情報を知ることが大切

まとめ 自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切です。また、ひなん勧告などが発表されたら早くひなんすることが大切です。

まとめが長文となることから、説明や理解が難しいと考えられる場合は、(かっこ)書きを利用することも効果的です。

<例>

(自然災害)の危険から身を守るためには、日ごろから(備えて)おくことが大切です。また、ひなん勧告などが発表されたら早く(ひなん)することが大切です。

11.指導計画と評価

評価に関しては、1) 教科としての評価規準（国立教育政策研究所：評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校社会科）、2) 小学校段階における防災教育の目標（学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開）から事例を示す。

1) 第5学年の目標と評価の観点（P. 1,2 参照）

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。

2) 小学校段階における防災教育の目標

防災教育のねらいは、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（文部科学省 2010）に示した安全教育の目標に準じて、次の3つにまとめられている。

- ア 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。
- イ 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
- ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

これらの防災教育として必要な知識や能力等を児童生徒等に身に付けさせるためには、その発達段階に応じた系統的な指導が必要である。小学校段階における防災教育の目標としては、次のように示されている。

小学校段階における防災教育の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童

<p>ア 知識・思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する。 	<p>イ 危険予測・主体的な行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる 	<p>ウ 社会貢献・支援者の基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる。
---	---	--

※文部科学省（2013）「学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開」より抜粋

○単元の目標と指導計画

日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり、さつま町や身近な川内川を事例として取り上げ、国（川内川河川事務所）や都道府県（鹿児島県）、市町村（さつま町）の取り組みについて調べることを通し、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

○指導と評価の計画の概要（4時間）

次	時	学習活動	評価の観点・評価方法	小学校段階における 防災教育の目標
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 我が国でおこる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害が起こりやすいことに気づく。 	【技能】 記録分析 【思考・判断・表現】 発言分析	【危険予測・主体的な行動】 【知識、思考・判断】
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて：なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ：日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。</div>		
	2	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害を防ぐために国や県、市町村などがさまざまな対策や事業を進めていることをとらえる。 	【知識・理解】 発言分析	【知識、思考・判断】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて：自然災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ：国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「事前に知らせる」、「伝える」、「防ぐ」取り組みをしています。これを「公助」と言います。</div>			
3	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害発生時の市町村の対応を調べるとともに、日ごろから防災意識を高めることのたいせつさに気づく。 	【関心・意欲・態度】 記録分析 【思考・判断・表現】 発言分析	【知識、思考・判断】 【社会貢献、支援者の基礎】	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて：災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ：地域で共に助け合う「共助」や、自分の身を自分で守る「自助」のために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。</div>			
4	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をまとめ、自分の見方や考え方で変化したことや、一人一人の防災意識を高めることが必要であることについて話し合う。 	【関心・意欲・態度】 記録分析 【思考・判断・表現】 発言分析	【危険予測・主体的な行動】 【知識、思考・判断】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて：災害に備えて私たちにできることは何だろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ：自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切です。また、避難勧告などが発表されたら早くひなんすることが大切です。</div>				

第1時間目：自然災害の多い日本

自然災害の多い日本では、自然災害について資料などから読み取ってまとめる状況〔観察・資料活用の技能〕、自然災害の防止の取り組みについて学習問題を考え表現する状況〔社会的な思考・判断・表現〕、災害時における危険を認識する状況〔ア 知識, 思考・判断〕で評価している。その際、「日本で起こっている様々な自然災害を知る」、「日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る」、「自然災害に対する取組みが行われていることに繋げる」など児童の具体的な姿を想定した。

(1) 評価規準【第1時】

教科の評価規準

観察・資料活用の技能		第1時
評価規準		<ul style="list-style-type: none"> 我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について、各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集め、我が国は自然災害が起こりやすいことや、その被害を防止するために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを読み取ってまとめている。 <p style="text-align: right;">【記録】</p>
評価例	満足できる	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の自然災害について資料から読み取ったことを、白地図などや年表に整理している。
	努力を要する児童への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 終末部分では、災害被害の防止について徐々に関心を高めていくことが重要であるが、ここでは、教科書の写真や資料を活用しながら、自然災害はわたしたちの生活を脅かすものであることに気づかせる

※東京書籍「新しい社会5 教師用指導書 研究編 (5年下)」

※努力を要する児童への手立て：東京書籍「新しい社会5下 指導編」

小学校段階における防災教育の観点

ア 知識, 思考・判断

- ・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動を取るための判断に生かすことができているか。
- ・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解できているか。

(2) 評価のねらい【第1時】

我が国の国土面積は、世界の中では小さな割合であることに比較して災害が多発していることの原因について、統計資料やグラフ等から読み取り、災害が多いこととその理由を関連づけてまとめられるかについて、〔観察・資料活用の技能〕および〔ア 知識, 思考・判断〕の観点から評価する。



教材：板書カード



統計資料, グラフの活用

具体的な評価の視点としては、水害や土砂災害が何故おこりやすいのかの理由について、統計資料やグラフから読み取れているか、ワークシート上での確に整理できているかを、記録から分析する。

社会科ワークシート

小学5年生社会「自然災害を防ぐ1」

月 日() 5年 組 名前

今日のめあて

なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？

ひとりで考えてみよう

グループで話し合ってみよう

今日のまとめ

日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。

自然災害が毎年発生しているのに、被害が少ないのはなぜだろう？

■水害・土砂災害の発生回数



■平成26年8月の大雨の影響で洪水や土砂災害が各地で発生しました



第1時 自然災害の多い日本 ワークシート

(3) 評価の実際【第1時】

導入時の学習活動として、最新のニュースでの自然災害の話題はないのか、自然災害にはどのようなものがあるのか考えさせ、本時のめあてに繋げた。その際、教材としては、全国の自然災害の発生状況の写真（地震：兵庫県、津波：宮城県、洪水：福岡県、土砂崩れ：熊本県、火山噴火：宮崎県、台風：沖縄県）を提示し、教師の働きかけとしては、「最近の日本ではどのような災害が起こっているのか」、「日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる」視点で考えさせた。その結果、児童の行動から、教科書の災害年表等から毎年、日本各地で様々な災害が発生していることを読み取っている〔観察・資料活用の技能〕の場面、資料から世界全体に占める国土面積の割合が低いこと、それに比較して自然災害発生の割合が高いことを捉えている〔ア 知識, 思考・判断〕場面がみられた。

また、児童のワークシートの回答からは、「日本は一年でたくさんの台風が接近するから」、「日本の平均降水量が多いから」、「日本の川は流れが急であるから」等、我が国の国土には自然災害が起こりやすいという特色があることに気づく表現がみられた。



資料等を集め、情報を読み取っている場面



集めた情報を整理しまとめている場面

ワークシートの記入例【第1時】

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？	
ひとりで考えてみよう	グループで話し合ってみよう
<ul style="list-style-type: none"> 日本の川は流れが急だから、流れが速くないから。 山地が多いから、土砂災害になりやすい。 この水量が多いので、川の水が多くなりやすい。 日本に近づいた台風が、とても多く、被害をもたらすことが多いから。 	<ul style="list-style-type: none"> 山地が多いから、台風が近づくことが多いから。 日本の川は流れが急だから、この水量が多いから。

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？	
ひとりで考えてみよう	グループで話し合ってみよう
<ul style="list-style-type: none"> 日本は川口のなまりまで、雨が外よりながれがきつたから。 日本は世界の平均より、このすいよりのほうが多いから。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本は台風がよくせき止まり、このすいよりの多く、世界河川まで、おなじく標高が高い場所にあるから、自然災害が多いといえる。

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？	
ひとりで考えてみよう	グループで話し合ってみよう
<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害が多のは、日本の地形がほとんど山地だから。 水害が多のは、日本には台風が接近することが多いから。 	<ul style="list-style-type: none"> 山地が多いから。 台風が近づいたのが、多いから。 日本川の流れが急だから。 降水量が多だから。

① 日本で水害や土砂災害が多いのはなぜだろう？	
ひとりで考えてみよう	グループで話し合ってみよう
<ul style="list-style-type: none"> 台風が南から出て西へ行き、東や北へ行く所が、ちょうど日本を通る道になっている。 山地が多いから、川の流れが急だから。 	<ul style="list-style-type: none"> 山が多いから。 台風がくるから。 川が多いから。 川の流れが急だから。 つやが、あるから。 海に囲まれているから。 土がやわらかくなるから。 大雨がふるから。 じしんがおこるから。

我が国の国土には自然災害が起こりやすいという特色があることに気づく表現〔ア 知識、思考・判断〕

(1) 評価規準【第1時】

教科の評価規準

社会的な思考・判断・表現		第1時
評価規準		<p>・我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、自然災害の防止を国民生活や自分自身と関連づけて思考・判断し、国・都道府県などの取り組みや、国民一人ひとりの協力、防災意識の向上などが重要であることを表現している。</p> <p style="text-align: right;">【発言・記録】</p>
評価例	満足できる	・自然災害の多さから、被害を防止する取り組みがあることを予想し、学習問題を立てている。
	努力を要する 児童への手立て	・終末部分では、災害被害の防止について徐々に関心を高めていくことが重要であるが、ここでは、教科書の写真や資料を活用しながら、自然災害はわたしたちの生活を脅かすものであることに気づかせる。

※東京書籍「新しい社会5 教師用指導書 研究編 (5年下)」

※努力を要する児童への手立て：東京書籍「新しい社会5下 指導編」

小学校段階における防災教育の観点

イ 危険予測・主体的な行動

・災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる。

(2) 評価のねらい【第1時】

自然災害が多発する一方で、被害は比較的多くはないことの原因について追究する活動から、児童の意欲的な取組について行動及び発言を分析して〔社会的な思考・判断・表現〕および〔イ 危険予測・主体的な行動〕の観点から評価する。具体的な評価の視点としては、自然災害と国土や気候等に関する資料をもとに、これから調べたいことを考える活動から、児童が興味・関心をもって追究しているかどうかを、行動や発言から分析する。また、洪水や土砂災害に関する様々な情報を提示して、日本で水害や土砂災害が多いことの原因を考えさせながら、自然災害の多さと国土や気候条件との関係を追って姿を行動観察から評価する。

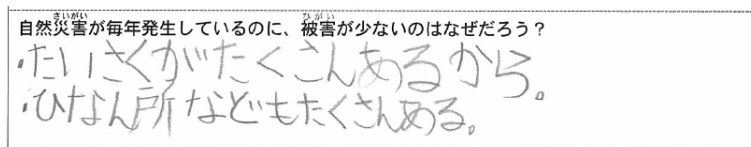


学習問題の予想や学習計画を考えられているか 思考・判断したことを言語活動で表現できているか

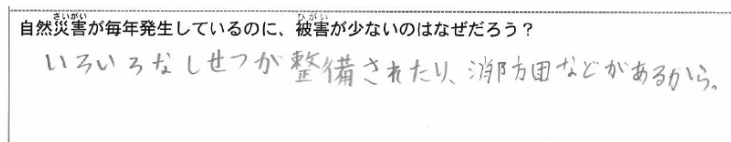
(3) 評価の実際【第1時】

終末時の学習活動として、日本で自然災害が多い理由をまとめさせた(第1時ワークシート参照)。教材としては、世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合のグラフを提示した。そして、日本で自然災害の被害が少ないのと備えに関連があることに気がつかせ、誰がどんな備えをしているのかをワークシートにまとめさせた。その結果、児童のワークシートからは、自然災害が毎年発生しているのに被害が少ないのは、色々な施設が整備されたり消防団などがあるから、災害が起きた時にすばやく避難している等、被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解している表現〔イ 危険予測・主体的な行動〕や、被害が少ないのは避難所の設備や日頃の備えが必要であることを理解している表現〔社会的な思考・判断・表現〕がみられた。

ワークシートの記入例【第1時】



避難所の設備や日頃の備えが必要であることを理解している表現
〔社会的な思考・判断・表現〕



被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解している表現
〔イ 危険予測・主体的な行動〕

第2時間目：自然災害を防ぐために（公助）

自然災害を防ぐために（公助）では、国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていること、自然災害の被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している状況〔知・理〕の評価規準で評価している。その際、「国や地方公共団体により実施されている様々な公助を理解する」、「堤防整備などの対策により災害の被害を減らすことができることを知る」、「緊急地震速報などを伝える公助を理解し国民が生活に活かしていることを知る」など児童の具体的な姿を想定した。

(1) 評価規準【第2時】

教科の評価規準

社会的事象についての知識・理解		第2時
評価規準		<ul style="list-style-type: none"> 我が国は自然災害が起こりやすく、国や県が被害を防止するための対策や事業を進めていること、国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。 <p style="text-align: right;">【発言・記録】</p>
評価例	満足できる	<ul style="list-style-type: none"> 国や地方公共団体が様々な事業を行っていること、国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が大切であることを理解している。
	努力を要する児童への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 学校での避難訓練の様子を思い出させ、防災意識をもつことが大切であることを気づかせる。

※東京書籍「新しい社会5 教師用指導書 研究編(5年下)」

※努力を要する児童への手立て：東京書籍「新しい社会5下 指導編」

小学校段階における防災教育の観点

ア 知識、思考・判断

- ・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができているか。
- ・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解できているか。

(2) 評価のねらい【第2時】

災害に対する様々な対策を、国や都道府県、市町村が実施していることを、児童のワークシートの記述や発表時の様子から分析して、[社会的事象についての知識・理解] および [ア 知識、思考・判断] の観点から評価する。具体的には、災害による被害を防ぐために国・都道府県・市町村により様々な対策が進められていること、また、災害時の情報が行政により住民に伝えられる仕組みが複数あることを理解できているか、発表時の状況から分析して評価する。



災害時の情報伝達経路のパズルから



調べた社会的事象に関する知識を理解できているか

(3) 評価の実際【第2時】

展開時の学習活動として、平成 18 年の学校の近くの水害の様子の写真を見て、さつま町ではどんな自然災害があるかを考えさせた。教材としては、平成 18 年水害時の写真を提示し、ワークシートからさつま町での自然災害の被害を防ぐための取り組みを調べまとめさせた。ワークシートは、さつま町内で勧められている災害を防ぐ様々な取り組みを、『避難場所や危険箇所を事前に知らせる』、『防災情報を早く正確に伝える』、『災害を防ぐ』に分けて考えさせる構成である。児童の行動からは、平成 18 年の学校の近くの水害の様子の写真を見て確認することで、地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解している [ア 知識、思考・判断] 場面がみられた。そして、調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し分類させ国土交通省やさつま町が行っていることをまとめさせることで、自然災害を防ぐために国や都道府県、市町村により様々な対策や事業が進められていることを理解している [社会的事象についての知識・理解] 場面がみられた。

ワークシートの記入例【第2時】

小学5年生社会「自然災害を防ぐ2-1」

今日のめあて

自然災害を防ぐためにどんな取り組みが行われているのだろうか。

■ 右側の取り組み(①~⑩)を、似ているものどうしにわけてみよう!

取り組み	「似ている取り組み」の番号
【ひなん場所や危険か所を事前に知らせる】 ための取り組み	⑥⑧⑨⑩
【防災情報を早く正確に伝える】 ための取り組み	①③④
【災害を防ぐ】 ための取り組み	②③⑤⑦

■ さつま町内で進められている災害を防ぐさまざまな取り組み

① 土砂災害情報

大雨が降って土砂災害が心配なとき、テレビやラジオ、防災無線などで、避難場所や危険箇所などの情報を住民に知らせる。さつま町が防災行政無線や広報車などから呼びかけます。

② がけくずれ工事

くずれた土砂の一部を取り除き、がけの形を整えたり、セメントで表面を固めたりする工事。観光地や山道のさつま町が行っています。

③ かん検カメラ

災害を防ぐために、国土交通省が川内にかん検カメラを設置して、つねに川の様子を観望し、災害が起こりそうときには、さつま町に知らせます。

④ 防災無線

作業中や避難所を知らせるための無線通信システムです。さつま町が各家庭に設置しています。

⑤ 堤防

大雨が降って川があふれやすいようにするため、川のそばに堤防を築く。国土交通省が行っています。

⑥ 川の水ハザードマップ

しん水ひ害が起きるような場所や河川敷、避難するための避難所などが分かるように、さつま町が作っています。

⑦ 分水路

川の水が増えたときに、水が流れる道を導く。川の水をためておく。国土交通省が行っています。

⑧ 避難場所をしめす看板

この水が来たときにすみやかに避難できるように、目印がわかる避難場所がわかるような看板をさつま町が設置しています。

⑨ 土砂災害ハザードマップ

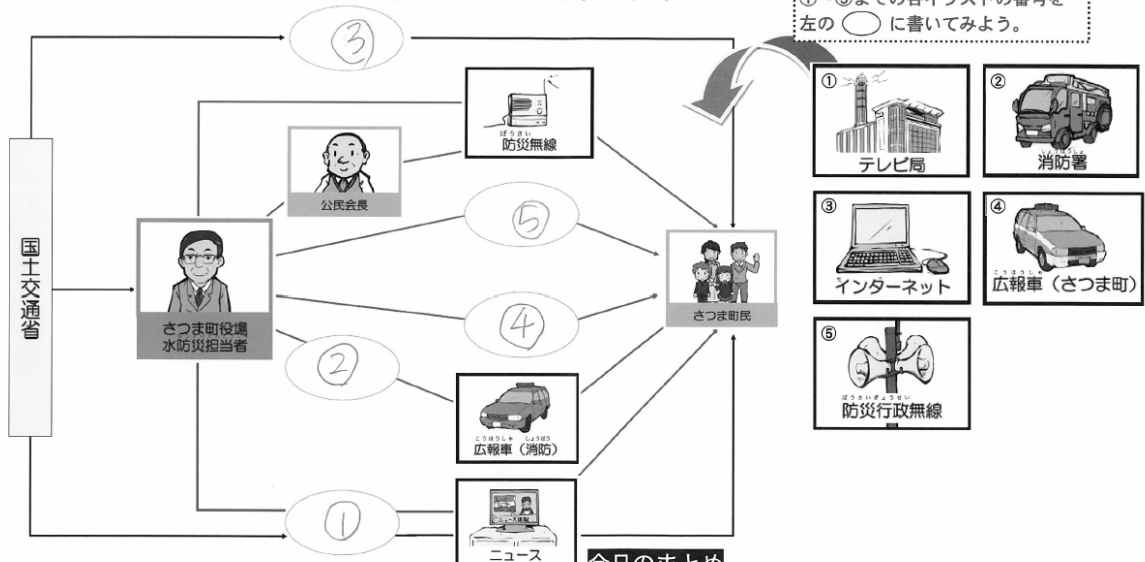
大雨や集中豪雨の時に、がけくずれや土砂災害に注意。避難所へ避難する場所がわかるように、さつま町が作っています。

⑩ まるごとまちごとハザードマップ

「過去の大きな水害時にどこまで水に浸ったか」などの情報をわかりやすく「まちなか」に表示する取り組みを国土交通省が進めています。

小学5年生社会「自然災害を防ぐ2-2」

② 災害が起こりそうなときに、どんな風に情報が伝えられてくるのか考えてみよう



どのイラストが、どこに入ったら情報が伝わるかな？
①~⑤までの各イラストの番号を左の○に書いてみよう。

今日のまとめ
国、都道府県、市町村が、自然災害による被害をへらすために、知らせる、伝える、防ぐなどの取り組みをしている。これを公助という。

自然災害を防ぐために様々な対策や事業が進められていることを理解している回答
〔社会的現象についての知識・理解〕

第3時間目：地域みんなで災害を防ぐ（自助・共助）

3 時間目：地域みんなで災害を防ぐ（自助・共助）では、自然災害の防止の重要性に関心を持ち、協力の大切さを考えようとしている状況〔社会事象への関心・意欲・態度〕、国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考えようとしている状況〔ア 知識, 思考・判断〕、自然災害が起りやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している状況〔ウ 社会貢献, 支援者の支援〕の評価規準で評価している。その際、「地域で実施されている様々な公助を理解する」、「自然災害に対し自分たちができることを知る」、「自然災害の防止には公助だけでなく、自助や共助も重要であることを知る」など児童の具体的な姿を想定した。

（1）評価規準【第3時】

教科の評価規準

社会事象への関心・意欲・態度		第3時
評価規準		・我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子に関心を持ち、意欲的に調べるとともに、自然災害の防止のために国民一人ひとりや自分自身が協力できることを考え、取り組もうとしている。 【発言・記録】
評価例	満足できる	・自分自身が取り組めることを考えて、作品で提案しようとしている。
	努力を要する児童への手立て	・実際に自分の住む地域に自然災害が起こったらどうなるだろうかと想像させることにより、テーマを考えさせる。

※東京書籍「新しい社会5 教師用指導書 研究編（5年下）」

※努力を要する児童への手立て：東京書籍「新しい社会5下 指導編」

小学校段階における防災教育の観点

ア 知識, 思考・判断

- ・地域で起りやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができているか。
- ・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解できているか。

ウ 社会貢献, 支援者の基盤

- ・自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる。

（2）評価のねらい

水害時の避難行動に、結果的に差が出た地域の比較を通して、何故そのような違いが出たのか、また、今後自分たちはどのようにするのがよいのかについて、映像資料や当時の状況を示す資料について、関心を持って意欲的に調べているかについて、〔社会事象への関心・意欲・態度〕および〔ア 知識, 思考・判断〕、〔ウ 社会貢献, 支援者の支援〕の観点から評価する。具体的には、自然災害と国土や気候等に関する資料をもとに、これから調べたいことを考える活動において、児童が興味・関心をもって追究しているかどうかを、行動や発言から分析する。また、洪水や土砂災害に関する様々な情報を提示して、日本で水害屋土砂災害が多いことの原因を考えさせながら、自然災害の多さと国土や気候条件との関係を追っていき姿を行動観察から評価する。



釜石市小学校の子どもたちのVTR



さつま町の水害で避難した人の話

社会ワークシート

小学5年生社会「自然災害を防ぐ3」

月 日 () 5年 組 名前

今日のめあて

災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。

① 釜石市の子どもたちが逃げるのができたのはなぜだろう？

[Blank space for student response]

② さつま町で多くの人の救助が必要となったのはなぜだろう？

[Blank space for student response]

今日のまとめ

地域で共に助け合う「共助」や、自分自身を守り「自助」するために、避難訓練や学習などの取り組みが進められている。

自分たちでできることやこれから気をつけたいと思うことを書いてみよう！

釜石の動画(3分)を視聴

平成23年3月11日の東日本大震災のとき、岩手県の釜石市では、約3千人の小中学生が素早い避難を行い、大津波を生きぬきました。

自分の身は自分で守るように言われてきた。自分一人でも生き延びると言われていたので、お父さん・お母さんを待つのではなく、一人で逃げた。

何回も避難訓練で練習してきた。「釜石の“奇跡”」ではない。

平成18年7月の豪雨のときに水害でひなんした人の話

平成18年7月の水害のとき、さつま町では、839戸の家が浸水し、237名の方が救助されました。

あの日は、私は2週間ほど休職中でした。家もひなん準備ができていたと聞き、急いで帰りました。でも、川の水位を覚えてあまり危険感がなかったのを覚えています。

家の前の田んぼは、大雨の時に水が溢れ出すことがあったので、あまり心配していませんでした。この日は初めてです。近所のお爺さんから「避難ですよ。」と声をかけてもらって、逃げようとしたときには、既に川が溢れ出して川の水が溢れ出て、家の周りには水が溢れていました。何も持ち出さず、逃げて逃げたのを覚えています。

玄関の前の水が溢れ出し、近くで働く主人に電話を掛けてきてもらい、二階に逃げました。主人のわずかのあいだに、家の中の家具はぶつかさうさじやめていました。主人とカーペット、車も走らず、さのみきのみまの向かいに避難しました。友人やボランティアのみなさんが多くのお助けをくれました。特に、さつま町立小学校の子もさんが床下で避難に足らし作業をやる前に家が倒壊し、お助けの力が助かりました。みなさんに助けられたという思いが強いです。

平成18年7月の豪雨のときに水害で救助した人の話

さつま町消防団消防団長

こんな水害は初めてです。そのせいひ、町民もひんをよびかけてもおうちに居ませんした。また、逃げが自由で逃げない高齢者を救助したときに、日頃の町民の活動が必要と感じました。

さつま町消防団消防団長

出動要請があつて現場につくと、民家のすぐ近くに水が溢れてきています。逃げひんをするようにお助けをよびかけました。あつて高齢者を救助してひんまで運び、おひんをよびかけて他の住民の救助に助けられたときは、最後までお助けしていただくにはお助けをよびかけませんでした。作中のひとりお助けに助けられたお話をさつたされました。避難訓練もお助けしたお話をさつた、どこに住民の助けをよびかけているのかお助けするのにお助けしました。

第3時 地域のみんで災害を防ぐ(自助・共助) ワークシート

(3) 評価の実際【第3時】

展開時の学習活動として、釜石市小学校の子どもたちのVTRを見て、なぜ、釜石市の子どもたちは逃げるのができたのか、さつま町で多くの人々を救助しなければならなかった理由を考えさせた。ワークシートは、『釜石市の子どもたちが逃げるのができたのはなぜか?』、『さつま町で多くの人々の救助が必要となったのはなぜか?』考える場面、平成18年7月の豪雨のときに水害で避難した人の話から構成している。児童の回答からは、「何回も学校で避難訓練を行っていたから」、「自分たちが工夫して避難訓練などを行っていたから」等、地域で防災訓練などを行い共に助け合うこと(共助)に気づく表現や、「釜石市の子どもたちは防災の学習や避難訓練で学んだことを実践したため自分た

ちの命を守ることができた」等、自分の身を自分で守ること（自助）に気づく表現、さつま町でも平成18年の水害の教訓を生かし、避難訓練など災害から身を守るための取り組みが行われていることに気づく表現〔社会事象への関心・意欲・態度〕がみられた。また、「川の水位を見てもあまり危機感を感じなかった」、「避難を呼びかけても応じなかった」、「浸水していることに気がつかなかった」、「大丈夫だと思っていた」等、日頃から防災意識を高めておく必要性に気づく表現〔ア 知識, 思考・判断〕,〔ウ 社会貢献, 支援者の支援〕もみられた。



地域の人々の体験談に関心を示している場面

学んだ成果を社会生活に生かそうとしている場面

ワークシートの記入例【第3時】

① ^{かまいし}釜石市の子どもたちが^に逃げるのができたのはなぜだろう？

何回もひなん訓練してきたから。
自分を守る一人でも生きのびろと言われ、それとっくにしていたから。

② さつま町で多くの人の救助が必要となったのはなぜだろう？

ひなんしてと言われてもおそくまでひなんしなかったから。

避難訓練など災害から身を守るための取り組みが行われていることに気づく表現
〔社会事象への関心・意欲・態度〕

自分たちでできることやこれから気をつけたいと思うことを書いてみよう！
・ひなん場所の石壁に人やひなんする時に危険なところを矢印でおく。
・ひなんする時に必要な物や道具をそろえておく

自分たちでできることやこれから気をつけたいと思うことを書いてみよう！
自分の身は自分で守ったり、たがいに助けあったりしたいしお父さんなどがひなんしなかったらいいにひなんする。

日頃から防災意識を高めておく必要性に気づく表現
〔ア 知識, 思考・判断〕,〔ウ 社会貢献, 支援者の支援〕

第4時間目：自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助）

4 時間目：自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助）では、3 時間目同様、自然災害の防止の重要性に関心を持ち、協力の大切さを考えようとしている状況〔社会事象への関心・意欲・態度〕とともに、国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え、自然災害が起りやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している状況〔社会的な思考・判断・表現〕、〔ア 知識，思考・判断〕、災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる状況〔ウ 危険予測・主体的な行動〕の評価規準で評価している。その際、「これまでの学習をもとに自然災害から自分の身を守るためにはどうすればよいか考える」、「災害に備えて自分たちにできることについて話し合い発表する」など児童の具体的な姿を想定した。

（1）評価規準【第4時】

教科の評価規準

社会的な思考・判断・表現		第4時
評価規準		<p>・我が国の自然災害やその防止の取り組みの様子について学習問題や予想，学習計画を考え表現するとともに，自然災害の防止を国民生活や自分自身と関連づけて思考・判断し，国・都道府県などの取り組みや，国民一人ひとりの協力，防災意識の向上などが重要であることを表現している。</p> <p style="text-align: right;">【発言・記録】</p>
評価例	満足できる	<p>・【第3・4時】公助のしくみを利用しながら，まわりの人と協力して日ごろから災害に備えたり，防災意識を高めたりすることが大切であることを，ワークシートに表現している。</p>
	努力を要する児童への手立て	<p>・【第3・4時】実際に自分の住む地域に自然災害が起こったらどうなるだろうかと想像させることにより，テーマを考えさせる。</p>

※東京書籍「新しい社会5 教師用指導書 研究編（5年下）」

※努力を要する児童への手立て：東京書籍「新しい社会5下 指導編」

小学校段階における防災教育の観点

ア 知識，思考・判断

- ・地域で起りやすい災害や地域における過去の災害について理解し，安全な行動をとるための判断に生かすことができているか。
- ・被害を軽減したり，災害後に役立つものについて理解できているか。

イ 危険予測・主体的な行動

- ・災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして，自らの安全を確保することができる。

(2) 評価のねらい【第4時】

様々な対策が進められても、今後、災害が起こる可能性があることに気づき、自然災害から自分の身を守るためにはどうすればよいのかについて、これまでの学習をもとに探求する活動から、児童の意欲的な取組について行動及び発言を分析して、〔社会的な思考・判断・表現〕および〔ア 知識、思考・判断〕、〔イ 危険予測・主体的な行動〕の観点から評価する。具体的には、学習を振り返って、自然災害の多い我が国で、それを防ぐための取り組みとして、自助・共助・公助があり、自助・共助として自分が何をできるのかを考える活動から、児童が興味・関心をもって追究しているかどうかを、行動や発言から分析を行う。また、特にハザードマップを活用して自宅周辺等の災害リスクの存在や避難場所等を確認する作業を通して、特に避難のために備えることについて考える姿を行動観察から評価する。



学習問題の予想や学習計画を考えられているか 思考・判断したことを言語活動で表現できているか

小学5年生社会「自然災害を防ぐ4」

月 日 () 5年 組 名前

今日のめあて
災害に備えて私たちにできることはなんだろうか。


① 地図から自分の家をさがして、自宅のまわりや通学路で気をつけな
いとけない災害やひなん所をさがしてみよう。

■自分の家を見つけたら、そこに◎印を書いてみよう。
■自宅のまわりや通学路では、どんな災害に気をつけることが大切だろう？
■自宅から一番近いひなん所を探して、名前を書いてみよう。

■自分の家をさがして地図(別紙)に書き込んでみよう!



さつま町 防災マップ



土砂災害ハザードマップ

② 災害が起きそうな時には、どんな情報に注意して、何を持って行く
とよいだろう？ これまでの授業を思い出して書いてみよう。

災害の情報は何かから集めるとよいだろう？	ひなんの時に持っていくものとして、何を準備しておけばよいだろう？
ひとりで考えてみよう	ひとりで考えてみよう
グループで話し合ってみよう	グループで話し合ってみよう

※ヒントコーナーの資料もみてみよう。

今日のまとめ
自然災害の危険を回避するために、日ごろから備えておくことが大切です。また、避難勧告等が発令されたら速やかに避難することが大切です。

(3) 評価の実際【第4時】

展開時の学習活動として、災害時に逃げ遅れにならないためにはどのようなことをしなければならぬかを考えさせ、活用できる防災情報を知り、避難に備えることの大切さに気がさせた。教材としては、数位レベル表示や監視カメラ、防災無線、地デジデータ放送などの写真や川内川河川事務所が作成した「早よみやん川内川」、「ハザードマップ」を提示し、それらの教材をもとに、ハザードマップで自宅周辺の災害要素や避難所の確認を行った。また、ワークシートを使い、自宅、学校の登下校時、よく遊んでいる公園等、様々な場所にいることを想定させその際の避難所の確認を行った。ワークシートは、『自分の家を見つけたら○印を書いてみよう』、『自宅のまわりや通学路ではどんな災害に気がつけることが大切か』、『自宅から一番近い避難所を探して名前を書いてみよう』という指示と、さつま町防災マップ、土砂災害ハザードマップから構成している。児童の行動からは、ハザードマップの留意点や発展的な取り組みについて理解する場面〔ア 知識, 思考・判断〕、洪水ハザードマップから地域を知ることに加えて避難に向けた備えの必要性について考える場面〔イ 危険予測・主体的な行動〕がみられた。



自然災害の防止を国民生活や自分自身と関連づけて思考・判断している場面

また、ワークシートにおいて、災害への様々な備えとして、『情報収集の方法や持ち出し品について整理するために災害の情報は何から集めるとよいか?』、『避難時に持っていくものとして何を準備しておけばよいか?』ということを考える場面（一人、グループで）を設定することで、「テレビ・ラジオ・新聞・インターネット」、「防災無線・公民館の放送」等の災害に関する情報の入手方法について理解する表現〔社会的な思考・判断・表現〕や、「食料・水・衣類・ラジオ・懐中電灯・ひも・ロープ・電池・」等の避難の際に必要な持ち出し品を整理し〔ア 知識, 思考・判断〕、事前の備えの重要性を理解する表現〔イ 危険予測・主体的な行動〕がみられた。

そして、終末時の学習活動として、自然災害に備えて私たちにできることを総括させた。これまでの学習を振り返らせることで、防災・減災に必要なことを考える、避難勧告等が発令されたり危険を感じるときは速やかに避難する、といった自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している場面〔社会的な思考・判断・表現〕がみられた。

ワークシートの記入例【第4時】

- ① 地図から自分の家をさがして、自宅のまわりや通学路で気をつけな
いといけない災害やひなん所をさがしてみよう。

<p>■自分の家を見つけたら、そこに◎印を書いてみよう。</p> <p>■自宅のまわりや通学路では、どんな災害に気をつけることが大切だろう？</p> <p>土砂災害</p> <p>■自宅から一番近いひなん所を探して、名前を書いてみよう。</p> <p>いそいそ石井修善宮</p>

災害への様々な備えを理解する表現

〔ア 知識、思考・判断〕

- ② 災害が起きそうな時には、どんな情報に注意して、何を持っていく
とよいだろう？ これまでの授業を思い出して書いてみよう。

災害の情報は何かから集めるとよいだろう？	ひなの時に持っていくものとして、何を準備しておけばよいだろう？
<p>ひとりで考えてみよう</p> <p>テレビ、ラジオ インターネット 公明館の放送</p>	<p>ひとりで考えてみよう</p> <p>食料(飲料、水、かんづめ) レインコート、かんづめ、 タオル、靴、 通帳(お金と印かんも)</p>
<p>グループで話し合ってみよう</p> <p>防災無線 新聞</p>	<p>グループで話し合ってみよう</p> <p>ろうそく ライター ナイフ 巻 ラジオ(手回し) ティッシュペーパー</p>

- ② 災害が起きそうな時には、どんな情報に注意して、何を持っていく
とよいだろう？ これまでの授業を思い出して書いてみよう。

災害の情報は何かから集めるとよいだろう？	ひなの時に持っていくものとして、何を準備しておけばよいだろう？
<p>ひとりで考えてみよう</p> <p>テレビや新聞、ラジオなどで 情報を集める。</p>	<p>ひとりで考えてみよう</p> <p>食料や衣類、水、かんづめ、 印かん、財布、お薬など。</p>
<p>グループで話し合ってみよう</p> <p>無線、インターネット</p>	<p>グループで話し合ってみよう</p> <p>きんぎょ箱、ラジオ、レインコート、 ろうそく、ライター、ナイフ、タオル。</p>

事前の備えの重要性を理解する表現

〔イ 危険予測・主体的な行動〕

今日のまとめ

自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切である。また、ひなん勧告などが出されたら、すぐにひなんすることが大切である。

国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを理解する表現

〔社会的な思考・判断・表現〕

<出典一覧>

○第1時

全国の自然災害の 写真	○地震(兵庫県)	(財)消防科学総合センター「災害写真データベース」 < http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do >
	○津波(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
	○噴火(宮崎県新燃岳)	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する政府支援チーム (2011)「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」
	○台風(沖縄県宮古島市)	宮古島地方気象台提供
世界全体に占める日本の国土面積の割合(世界地図)		樹商事株式会社「世界地図」< sekaichizu.jp >
世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合 (グラフ)		内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 35) < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm >
日本の国土の地形(グラフ)		総務省統計局「日本統計年鑑」 < http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm >
「台風はいつごろ近づくの」		国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」 < http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/ >
世界の地震の震源の分布		内閣府「平成 22 年版防災白書」 < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/index.htm >
世界の火山の分布		
世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の割合 (グラフ)		内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 8) < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm >
平成 26 年 8 月に京都府で発生した洪水写真		国土交通省近畿地方整備局ホームページ < http://www.kkr.mlit.go.jp/fukuchiyama/river/zensengaiyou.pdf >
平成 26 年 8 月に広島県で発生した土砂災害写真		国土交通省水管理・国土保全局ホームページ < http://www.mlit.go.jp/river/bousai/tec-force/index.html >

○第2時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
岩手県普代村の被害状況の写真(岩手県普代村)	普代村地域振興室提供

○第3時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
片田敏孝先生のいのちを守る特別授業 第1回 VTR「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」	NHK「シンサイミライ学校」< http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/ >

○第4時

集中豪雨(1時間降水量80ミリ以上)が増加しているよう す(グラフ)	気象庁「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/heavyraintrend.html >
自然災害に備えて私たちにできること ○気象警報の種類	気象庁「気象警報・注意報の種類」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/warning_kind.html >

<参考文献>

- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 社会編」
- ・国立教育政策研究所,教育課程研究センター(2011)「評価基準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校 社会)」
- ・東京書籍(2011)「新しい社会5」
- ・東京書籍(2011)「新しい社会5 教師用指導書 研究編」
- ・日本文教出版「日文教育資料【小学校社会】評価基準表(5年下)」

お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 調査課

〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2

TEL:0996-22-3271 (代) FAX:0996-22-6907 (代)